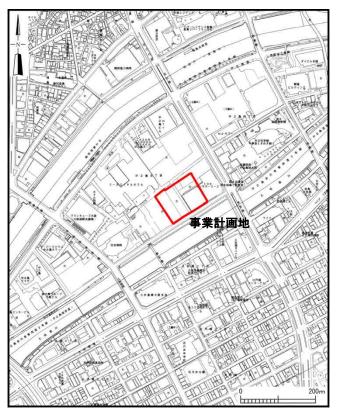
(仮称)中之島五丁目3番地計画

環境影響評価準備書

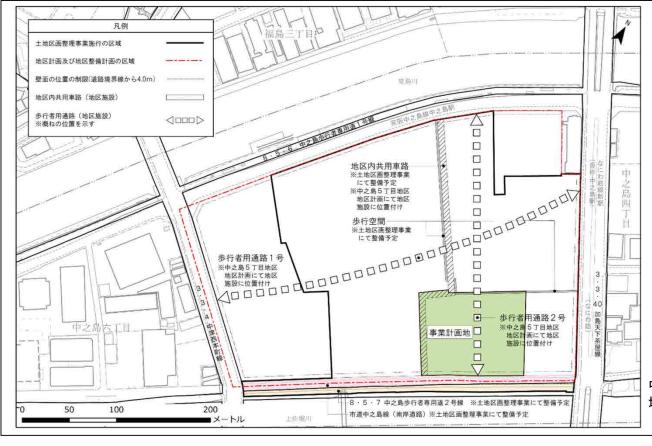
関電不動産開発株式会社 N T T 都市開発株式会社 住友商事株式会社

スライド1

事業計画の概要



事業計画地の位置



中之島五丁目地区 地区計画の概要



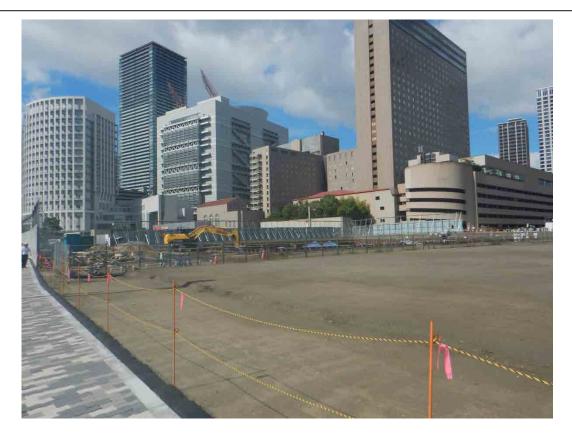


事業計画地の現状





事業計画地の現状





事業計画地の現状

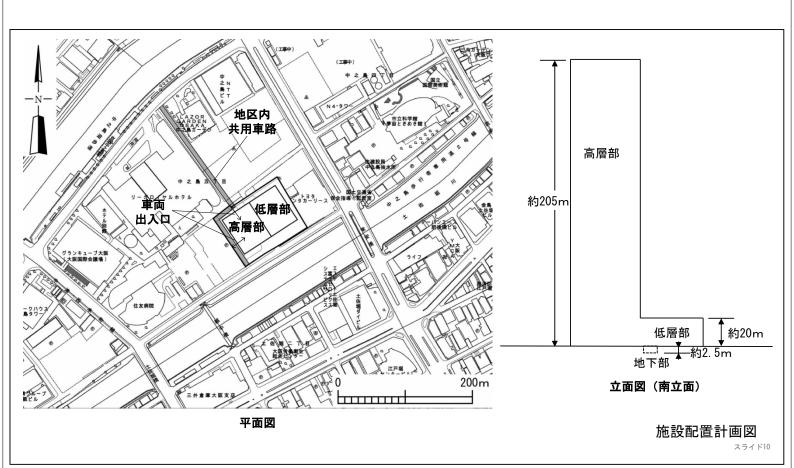




事業計画地の現状

	所		在	地	大阪市北区中之島五丁目 3			
	敷	地	面	積	約9,685㎡(地区内共用車路の一部を含む)			
事	区	域	の指	定	都市計画区域内(市街化区域)			
事業計画地の	地	也 域 • 地			商業地域、駐車場整備地区(都心部地区)、中之島五丁目地区地区 計画、特定都市再生緊急整備地域(大阪駅周辺・中之島・御堂筋周 辺地域)、景観計画区域(中之島地区、河川景観配慮ゾーン)			
の概要	防	防 火 地 域			防火地域			
罗	基	準 建	ぺい	率	80%(耐火建築物の場合100%)			
	容	積率	最高限	度	600% (900%) (総合設計都心居住容積ボーナス制度(都市再生型)適用の場合)			
	建	築	面	積	約5, 400㎡ (建ぺい率80%)			
	容	積 対	象 面	積	約87, 100㎡			
teta	延	ベ	面	積	約129, 000㎡			
設	階			数	地上57階、地下 1 階			
施設の概要	建	物	高	خ	約205m			
要	構	造			鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造+鉄骨造			
	主	な	用	途	住宅(1,010戸)、小規模商業施設			
	駐	車	台	数	約404台			

主要な施設の内容





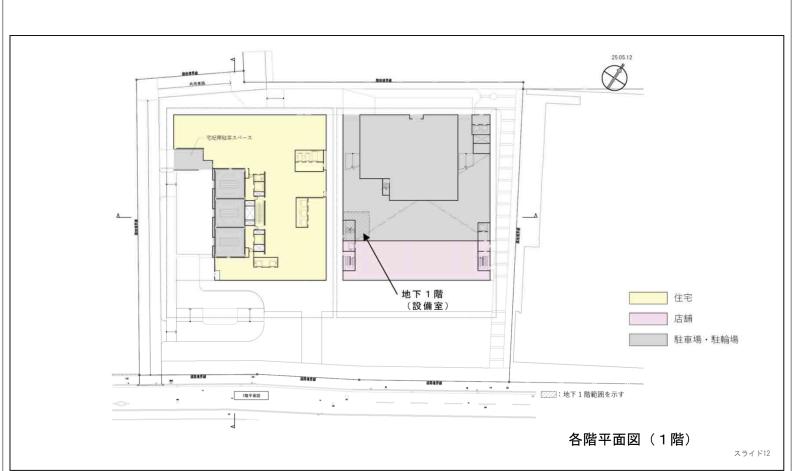


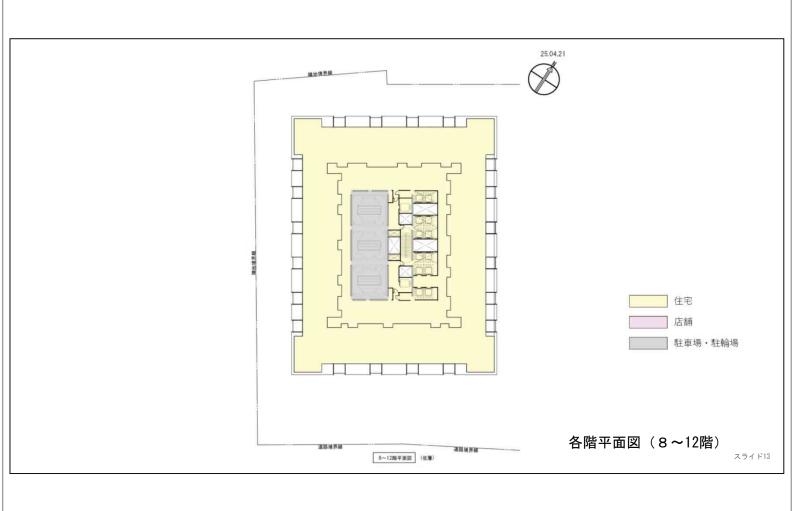
全体 低層正面

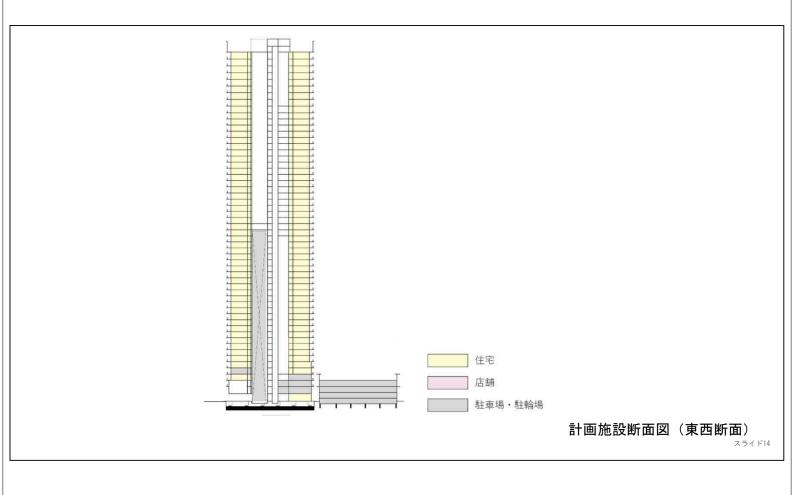


パース視点方向図

完成予想図







熱源計画

熱源設備の基本的な考え方

① 住宅

共用部の空調設備:個別熱源方式とし、電気式空気熱源ヒートポンプを設置。 専有部の空調設備・給湯設備:個別熱源方式とし、電気式空気熱源ヒートポンプを設置。

② 店舗(1・3階)

個別熱源方式とし、電気式空気熱源ヒートポンプ等を設置。

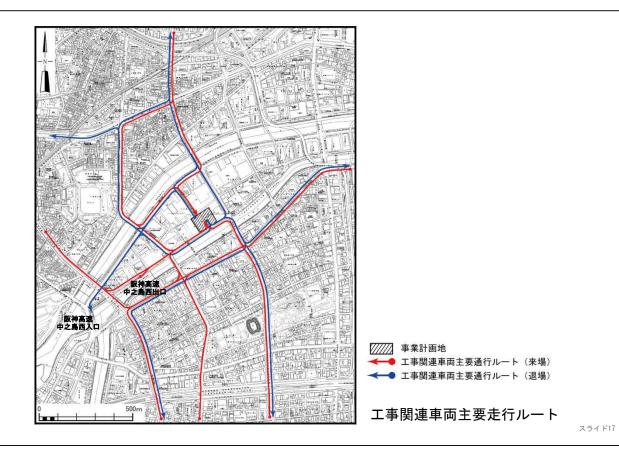
熱源機器構成

施設用途		冷暖房方式(個別熱源)	エネルギー
住宅共用部 (エントランスホール以外)	1	電気式空気熱源ヒートポンプエアコン	電気
住宅共用部 (エントランスホール)	2	電気式空気熱源ヒートポンプエアコン	電気
住宅専有部	3	ルームエアコン	電気
店舗バック部(1・3階)	4	電気式空気熱源ヒートポンプエアコン	電気
店舗テナント部(1・3階)	5	電気式空気熱源ヒートポンプエアコン	電気

スライド15

工事の全体工程





環境影響評価の内容

環境影響評価項目

	とべつしょ		" "		
			環境影響要因		
	施設の存在	施設の利用		建設工事	
環境影響評価項目	建築物の 存 在	施設の供用	建設機械 の稼働	工事関連 車両の走行	土地の改変
大気質			0	0	
水質・底質					
地下水					
土壤					
騒 音			0	0	
振動			0	0	
低周波音					
地盤沈下					
悪臭					
日照阻害	0				
電波障害	0				
廃棄物・残土					0
地球環境		0			
気象(風害を含む)	0				
地 象					
水象					
動物					
植物					
生態系					
景観	0				
自然とのふれあい活動の場					
文化財					0

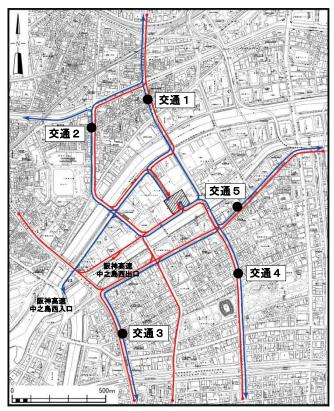
スライド19

大 気 質

<予測項目>

〔建設工事〕

- ・建設機械等からの排出ガスの影響
- ・工事関連車両からの排出ガスの影響



事業計画地

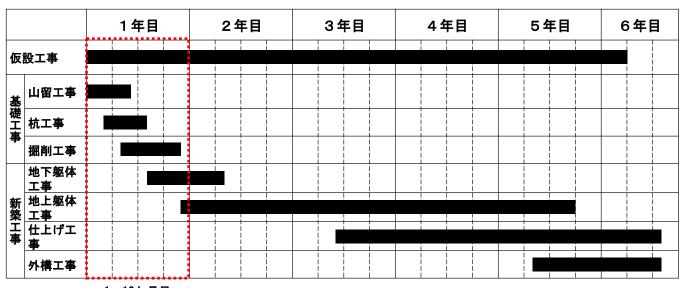
大気質の予測範囲及び予測地点

スライド21

大気質の予測物質・予測時期

	項目	予測物質	予測時期	
建設	建設機械等の排出ガス	二酸化窒素	工事最盛期 大気汚染物質 排出量最大時	
建	工事関連車両の 排出ガス	浮遊粒子状物質		

大気質の予測時期(建設機械の稼働)



1~12か月目

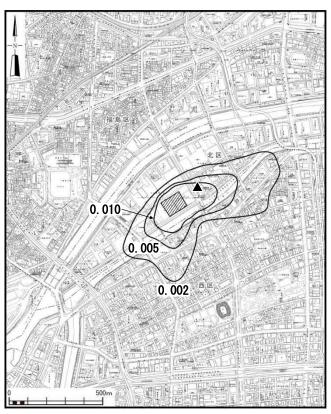
スライド23

建設機械等の機種、規格及び台数

区分	機種	規格	年間延べ台数 (台・日)	
	発電機	125kVA	500	
	発電機	150kVA	625	
	ラフタークレーン	25t	250	
	ラフタークレーン	70t	800	
	クローラクレーン	70t	250	
7.00	クローラクレーン	120t	375	
建設	クローラクレーン	150t	250	
機	バックホウ	0. 1m³	175	
械	バックホウ	0. 2m³	250	
	バックホウ	0. 25m³	175	
	バックホウ	0. 45m³	850	
	バックホウ	0. 8m³	350	
	バックホウ	1. 2m³	350	
	空気圧縮機	1. 1m³	175	

注:工事最盛期1年間(着工後1~12か月目)におけるのべ台数。

区分	機種	規格	年間延べ台数 (台・日)		
	空気圧縮機	5m³	250		
	三軸杭打機	5m³	250		
	ショベルドーザ	_	175		
7-1-	ウェルダー	_	250		
建設	エンジンウェルダー	_	250		
機	アースドリル機	_	250		
械	パワージャッキ	_	250		
	バキューム車	10t	100		
	ポンプ車	115~125m³/h	120		
	生コン車	4. 2~4. 5m³	5, 400		
_	ダンプトラック	10t	18, 700		
事	トラック	4t	3, 130		
車	トラック	10t	1, 175		
両	トレーラー	25t	975		



□ 事業計画地

▲ 周辺居住地等における最大着地濃度地点

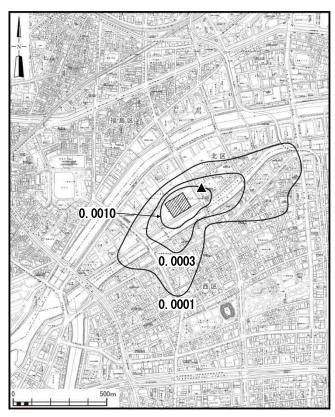
単位:ppm

窒素酸化物年平均值寄与濃度

建設機械等の稼働により発生する排出ガス予測結果 (二酸化窒素)

単位:ppm

		窒素酸	化物(N O _x)年	二酸化窒素 (NO ₂)		
予測時期	予測対象	建設機械等 による 寄与濃度 ①	バック グラウンド 濃 度 ②	環境濃度 (=①+②)	日平均値の 年間98%値	環境基準値
工事最盛期	周辺住居地等 における 最大着地濃度	0. 0169	0. 020	0. 0369	0. 047	0. 04 ~ 0. 06



□ 事業計画地

▲ 周辺居住地等における最大着地濃度地点

単位:mg/m³

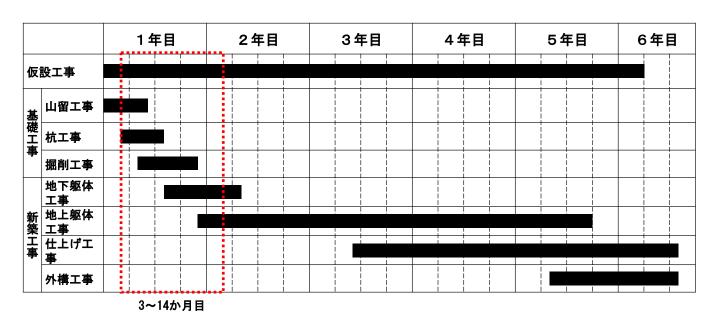
浮遊粒子状物質年平均値寄与濃度

建設機械等の稼働により発生する排出ガス予測結果 (浮遊粒子状物質)

単位: mg/m³

予測時期			浮遊粒子物	犬物質(SPM)		環境基準値	
	予測対象	建設機械等 による 寄与濃度 ①	バック グラウンド 濃 度 ②	環境濃度 (=①+②)	日平均値の 2%除外値		
	工事最盛期	周辺住居地等 における 最大着地濃度	0. 0010	0. 017	0. 0180	0. 041	0. 10以下

大気質の予測時期(工事関連車両の走行)



スライド29

工事中における地点別交通量

単位:台/日

로 계 나 上	一般	工事関連車両		
予測地点	大型車	小型車	大型車	
交通 1	1, 845	20, 865	182	
交通2	1, 987	12, 831	182	
交通3	3, 255	26, 065	182	
交通 4	1, 425	20, 451	182	
交通 5	3, 021	23, 607	182	

注:工事関係車両は、工事最盛期1年間(着工後3~14か月目)における1日あたりの平均台数。

工事関連車両の走行により発生する排出ガス予測結果 (二酸化窒素)

単位:ppm

			窒素酸化	二酸 ⁽ (N						
予測	予測	工事関連	パッ	クグラウンド	濃度				環境 基準値	
期	地点	車両 による 寄与濃度 ①	一般車両 による 寄与濃度 ②	一般 環境 濃度 ③	計 ④ (=②+③)	環境 濃度 (=①+④)	年平均値	日平均値の 年間98%値		
	交通 1 西側	0.0002	0.0017		0.0217	0.0219	0.0169	0.035		
프	交通 2 西側	0.0002	0.0023		0.0223	0.0225	0.0171	0.036	0. 04	
事最盛期	交通 3 西側	0.0002	0.0026	0.020	0.0226	0.0228	0.0172	0.036	~	
期	交通 4 西側	0.0003	0.0015		0.0215	0.0218	0.0168	0.035	0.06	
	交通 5 西側	0.0001	0.0017		0.0217	0.0218	0.0168	0.035		

スライド31

工事関連車両の走行により発生する排出ガス予測結果 (浮遊粒子状物質)

単位:mg/m³

		i						- ш		
			浮遊粒子状物質(SPM)年平均値							
予	72 YOU	工事関連	パッ	クグラウンド	濃度		口亚为法			
測 時 期	予測 地点	車両 による 寄与濃度 ①	一般車両 による 寄与濃度 ②	一般 環境 濃度 ③	計 ④ (=②+③)	環境濃度 (=①+④)	日平均値の 2%除外値	環境 基準値		
	交通 1 西側	0.000005	0.000067		0.017067	0.017072	0.040			
王	交通 2 西側	0.000006	0.000072		0.017072	0.017078	0.040			
事最盛	交通 3 西側	0.000006	0.000098	0.017	0.017098	0.017104	0.040	0.10 以下		
期	交通 4 西側	0.000007	0.000064		0.017064	0.017071	0.040			
	交通 5 西側	0.000003	0.000065		0.017065	0.017068	0.040			

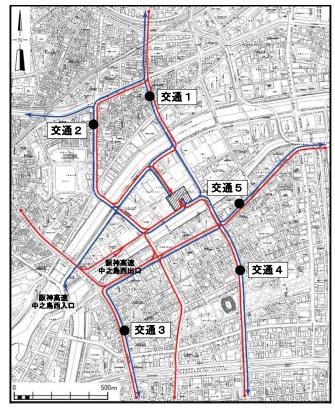
騒 音

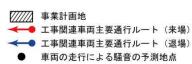
<予測項目>

〔建設工事〕

- ・建設機械等からの騒音の影響
- ・工事関連車両からの騒音の影響

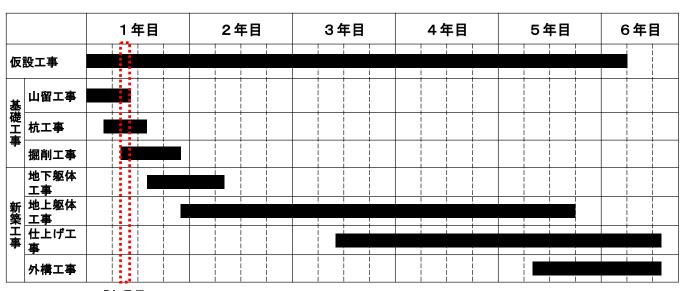
スライド33





騒音の予測範囲及び予測地点

騒音の予測時期(建設機械の稼働)



5か月目

スライド35

騒音源となる建設機械の諸元及び台数

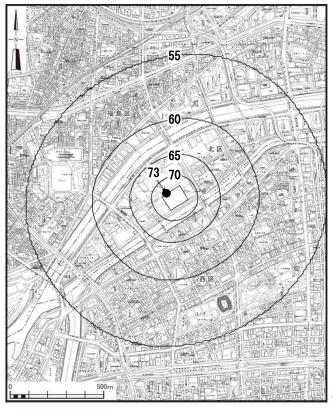
バキューム車

山留工事				杭工事				掘削工事			
騒音源	規格	パワーレベル (デシベル)	台数	騒音源	規格	パワーレベル (デシベル)	台数	騒音源	規格	パワーレベル (デシベル)	台数
三軸杭打機	_	107	2	アースドリル機	_	107	2	ラフター クレーン	70t	117	1
クローラー クレーン	70t	101	2	発電機	150kVA	102	3	バックホウ	1. 2m³	106	3
空気圧縮機	5m ³	105	2	発電機	125 kVA	102	5	バックホウ	O. 8m³	106	3
ウェルダー	_	102	2	クローラー クレーン	150t	101	2	バックホウ	0. 45m³	105	3
発電機	150kVA	102	4	エンジン ウェルダー	_	102	3	バックホウ	0. 25m³	105	2
バックホウ	0. 45m³	105	3	パワージャッキ	_	96	2	バックホウ	0. 1m³	105	1
ラフター クレーン	25t	117	2	バックホウ	0. 45m³	105	2	ショベルドーザ	_	112	1
バックホウ	0. 2m ³	105	4	ラフター クレーン	70t	117	3	空気圧縮機	1. 1m³	105	1
				生コン車	_	108	10				

108

2

注:工事最盛期:着工後5か月目



□ 事業計画地

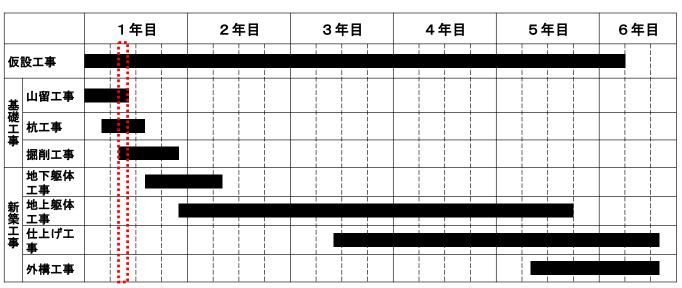
● 騒音レベル最大地点

単位:デシベル

工事最盛期の騒音予測結果

スライド37

騒音の予測時期(工事関連車両の走行)



5か月目

工事最盛期における地点別交通量

単位:台/日

圣湖 山地 上	性眼点人		一般車両		工事関連車両	ᄉᆗ
予測地点	時間区分	大型車	小型車	計	大型車	合計
	昼間	1, 633	19, 076	20, 709	590	21, 299
交通 1	夜間	212	2, 922	3, 134	0	3, 134
	計	1, 845	21, 998	23, 843	590	24, 433
	昼間	1, 761	12, 180	13, 941	590	14, 531
交通 2	夜間	226	1, 338	1, 564	0	1, 564
	計	1, 987	13, 518	15, 505	590	16, 095
	昼間	2, 660	24, 529	27, 189	590	27, 779
交通3	夜間	595	3, 176	3, 771	0	3, 771
	計	3, 255	27, 705	30, 960	590	31, 550
	昼間	1, 285	19, 077	20, 362	590	20, 952
交通4	夜間	140	2, 450	2, 590	0	2, 590
	計	1, 425	21, 527	22, 952	590	23, 542
	昼間	2, 630	21, 466	24, 096	590	24, 686
交通 5	夜間	391	3, 079	3, 470	0	3, 470
	計	3, 021	24, 545	27, 566	590	28, 156

スライド39

工事関連車両の走行により発生する 道路交通騒音予測結果

						位:デシベル	
		等価퇇	蚤音レベル(l	– _{Aeq})	環境	要請	
予測地点	時間区分	一般車両+ 工事関連車両	一般車両	工事関連車両 による増分	基準値	限度値	
交通 1	昼間	65. 7	65. 2	0. 5	70	75	
交通2	昼間	67. 8	67. 2	0. 6	70	75	
交通3	昼間	69. 5	69. 1	0. 4	70	75	
交通 4	昼間	65. 9	65. 4	0. 5	70	75	
交通 5	昼間	69. 2	68. 9	0. 3	70	75	

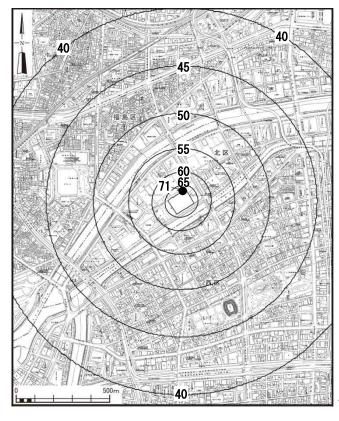
振動

<予測項目>

〔建設工事〕

- ・建設機械等からの振動の影響
- ・工事関連車両からの振動の影響

スライド41



□ 事業計画地

● 振動レベル最大地点

単位:デシベル

工事最盛期の振動予測結果

工事関連車両の走行により発生する 道路交通振動予測結果

単位:デシベル

		振動レベルの	西 幸		
予測地点	時間区分	一般車両+ 工事関連車両	一般車両	工事関連車両 による増分	要請 限度値
交通 1	昼間	41. 5	40. 8	0. 7	70
交通2	昼間	40. 3	39. 6	0. 7	70
交通 3	昼間	39. 4	39. 0	0. 4	70
交通 4	昼間	43. 0	42. 3	0. 7	70
交通 5	昼間	47. 8	47. 4	0. 4	70

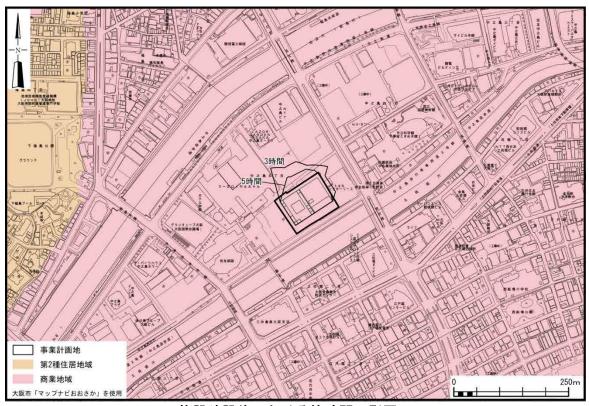
スライド43

日照阻害

<予測項目>

〔施設の存在〕

・建築物の設置による日影の影響



施設建設後における等時間日影図

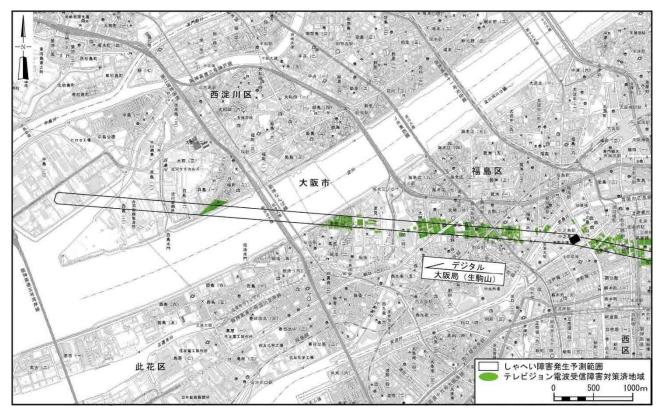
スライド45

電波障害

<予測項目>

〔施設の存在〕

・建築物の設置による電波障害の影響



施設建設後における電波障害予測結果



施設建設後における電波障害予測結果

廃棄物・残土

<予測項目>

〔建設工事〕

・工事の実施に伴い発生する 廃棄物及び残土等の影響

スライド49

工事の実施に伴い発生する 廃棄物等の予測結果

【予測結里】

廃棄物の種類	発生量 (t)	比率 (%)	リサイクル率 (%)	リサイクル量 (t)	処分量 (t)
がれき類	2, 527	32. 6	98	2. 476	51
ガラス・陶磁器くず	93	1. 2	0	0	93
廃プラスチック類	729	9. 4	78	568	160
金属くず	240	3. 1	98	235	5
木くず	1, 504	19. 4	95	1, 428	75
紙くず	217	2. 8	97	210	7
廃石膏ボード	1, 139	14. 7	97	1, 105	34
その他	357	4. 6	90	321	36
混合廃棄物	946	12. 2	70	662	284
合 計	7, 750	100.0	90	7, 007	744

【廃棄物リサイクル方法】

【沈未物リットノルガム】				
廃棄物の種類	リサイクル方法			
がれき類	再生砕石、路盤材			
廃プラスチック類	原料化、サーマルリサイクル			
金属くず	再資源化			
木くず	再生チップ			
紙くず	古紙再生			
廃石膏ボード	石膏ボードメーカーでの再利用			
混合廃棄物	原料別、サーマルリサイクル			

工事の実施に伴い発生する 廃棄物等の予測結果

【予測結果】

種類	工種	発生量 (m³)	リサイクル率 (%)	備考
残土	掘削工事	30, 924	-	高層棟50m×65m×5.5m=17,875m³ 低層棟45m×65m×3.5m=10,238m³ 膨張率1.1倍
	杭工事	20, 754	95	高層棟 φ 2.5m×50m×70本を想定、 低層棟 φ 1.2m×25m×60本を想定 膨張率1.1倍
汚泥	山留工事 (ソイルセメント壁)	3, 124	95	350m (延長) × 15m (深さ) =5, 250m ² 5, 250m ² ×0. 7m (厚み) × 85% =3, 123. 75m ³
	計	23, 878		

スライド51

地球環境

<予測項目>

〔施設の利用〕

・施設の供用に伴う温室効果ガスが 地球環境に及ぼす影響

環境保全対策

【住宅専有部】

区	分	環境保全対策	標準的な施設	計画施設	
	建築 小皮)	外壁の高断熱化・日射遮 蔽対策	日本住宅性能表示基準「5-1断熱 等性能等級」における等級4相当 (普通複層ガラス:中空層6mm程度)	Low-E複層ガラスを一部採用 (UA値0.6以下を満たす外皮能)	
照明	月設備	高効率照明器具の採用	蛍光ランプ(白熱灯以外)	LEDランプ(居室は居住者設置)	
給湯	易設備	高効率熱源機器・節湯水 栓の採用	ガス給湯器	・電気ヒートポンプ給湯機 ・高断熱浴槽	

【住宅共用部及び非住宅部】

ET OXYDIAN							
区分	環境保全対策	標準的な施設	計画施設				
建築 (外皮)	外壁の高断熱化 - 日射遮蔽対策	押出法ポリスチレンフォーム保温 板 1 種 (25mm) 、単板ガラス 各室用途基準による	吹付け硬質ウレタンフォームA種3 (25~40mm) 、単板ガラス				
空調設備	高効率熱源機器の採用	空冷HP熱源COP3.24程度 各室用途基準による	電気式空冷HP熱源COP3.78以上				
換気設備	高効率電動機器の採用	基準換気回数 (5~50回/h) 各室用途基準による	基準換気回数 (3~10回/h) 各室用途基準による				
照明設備	高効率照明器具の採用	蛍光ランプFHF32W程度 各室用途基準による	LEDランプを採用				

スライド53

二酸化炭素排出の比較

	標準的な施の 二酸化炭素出量	計画施設の 二酸化炭素排出量	削減率
住宅専有部	約2,230 t-CO ₂ /年	約1,458 t-CO ₂ /年	0. 34
住宅共用部 及び非住宅部	約1,544 t-CO ₂ /年	約1,501 t-CO ₂ /年	0. 02
給水	約44 t-CO ₂ /年	約44 t-CO ₂ /年	0
排水	約72 t-CO ₂ /年	約72 t-CO ₂ /年	0
合 計	約3,890 t-CO ₂ /年	約3,075 t-CO ₂ /年	0. 21

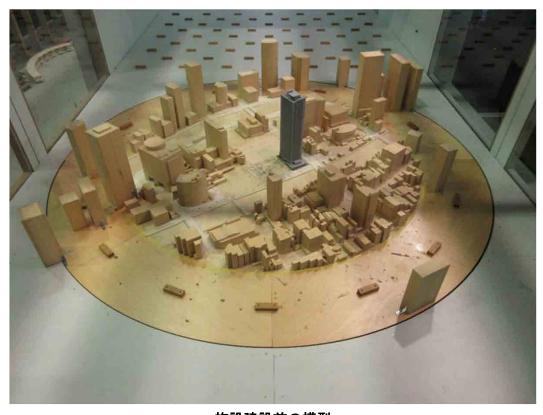
風害

<予測項目>

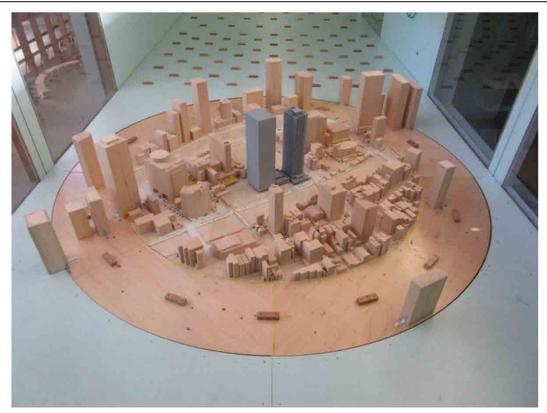
〔施設の利用〕

建築物の設置が事業計画地周辺の 風環境に及ぼす影響

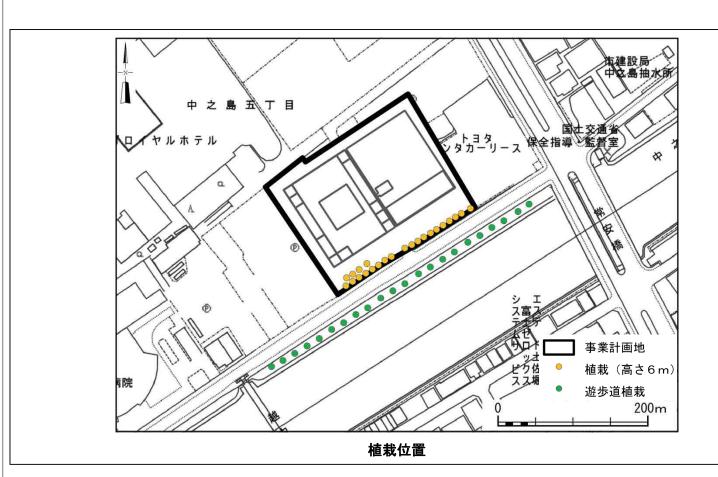
スライド55



施設建設前の模型



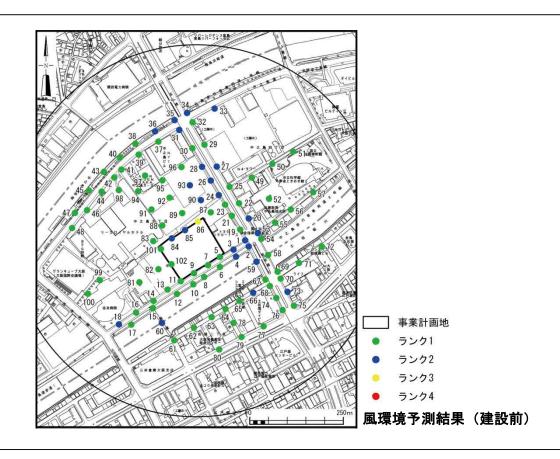
施設建設後の模型

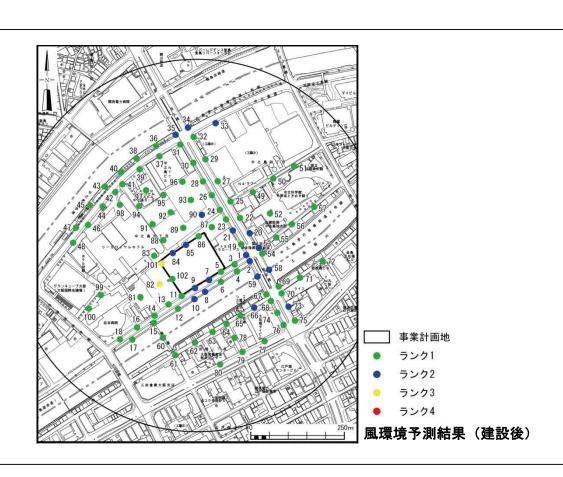




強風の出現頻度に基づく風環境評価規準

				「る強風のレイ 『される超過		
ラ	強風による	対応する	日最大瞬間風速(m/s)			
ランク	影響の程度			15	20	
			日最大	平均風速(m	/s)	
			10/G. F.	15/G. F.	20/G. F.	
1	最も影響を受けやすい	住宅地の商店街	10%	0.9%	0. 08%	
'	用途の場所	野外レストラン	(37日)	(3日)	(0.3日)	
2	影響を受けやすい用途	住宅街	22%	3.6%	0.6%	
	の場所	公園	(80日)	(13日)	(2日)	
3	比較的影響を受けにく	市 致 元 处:	35%	7%	1.5%	
<u> </u>	い用途の場所	事務所街	(128日)	(26日)	(5日)	
4	好ましくない風環境	_		ランク3以上		





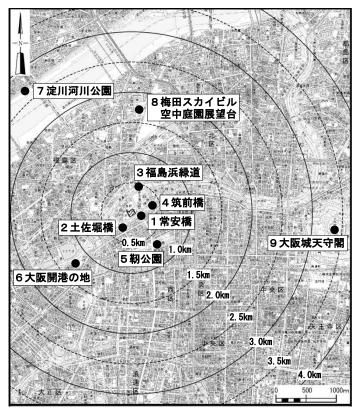
景観

<予測項目>

〔施設の存在〕

・建築物の出現が事業計画地周辺の景観に及ぼす影響

スライド63



事業計画地 景観調査地点

主要な眺望地点の位置



常安橋からの景観(現況)



常安橋からの景観(施設完成後)



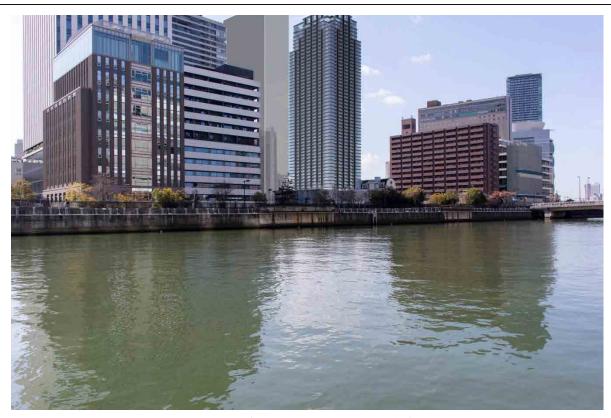
土佐堀橋からの景観(現況)



土佐堀橋からの景観(施設完成後)



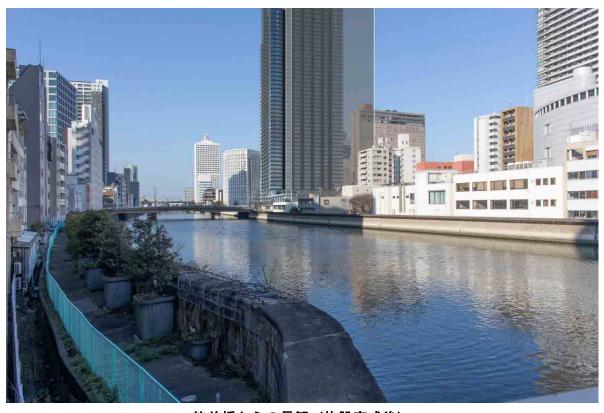
福島浜緑道からの景観(現況)



福島浜緑道からの景観(施設完成後)



筑前橋からの景観 (現況)



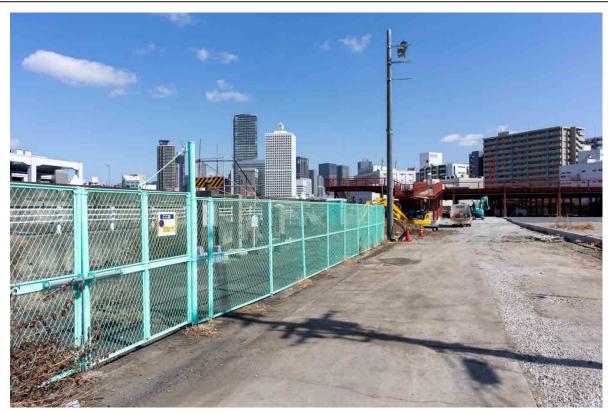
筑前橋からの景観 (施設完成後)



靭公園からの景観 (現況)



靭公園からの景観(施設完成後)



大阪開港の地からの景観(現況)



大阪開港の地からの景観(施設完成後)



淀川河川公園からの景観(現況)



淀川河川公園からの景観(施設完成後)



梅田スカイビル空中庭園展望台からの景観(現況)



梅田スカイビル空中庭園展望台からの景観(施設完成後)



大阪城天守閣からの景観(現況)



大阪城天守閣からの景観(施設完成後)

文 化 財

<予測項目>

[建設工事]

・土地の改変が埋蔵文化財に及ぼす影響

スライド83

埋蔵文化財に及ぼす影響の予測結果

- 事業計画地内には、国、大阪府及び大阪市が指定している史跡、名勝、 有形文化財及び天然記念物等は存在しない。
- ・事業計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(名称:中之島蔵屋敷跡、時代:近世、種類:その他:蔵屋敷跡)とされており、事業計画地の区域については、令和6年2月に試掘調査が実施され、令和7年3月より本掘調査が実施されている。
- ・本事業では、発掘調査完了後に工事を実施する計画である。また、工事の実施にあたっては、文化財保護法等の関係法令に基づき、必要な届出を行う。なお、建設工事の実施にあたって、何らかの遺跡等が発掘された場合は、大阪市教育委員会と協議の上、適切に対応する。

以上のことから、本事業による土地の改変が事業計画地の埋蔵文化財に 及ぼす影響は可能な限り回避・低減されていると予測される。

事後調査計画

	調査項目	調査時期及び頻度	調査地点及び範囲
	建設機械・工事関連車両の稼働状況 種類・型式別の 稼働台数・稼働時間等	工事期間中	事業計画地内
事中	建設作業騒音・振動	工事最盛期 平日 1日 工事時間帯に測定	事業計画地敷地境界 1地点(工事状況に基づき決定)
	廃棄物・残土 種類別発生量・排出量	工事期間中	事業計画地内